

有限会社ザートデザイン社長安次富隆氏。プロダクトデザイナーとして家電メーカーなどの工業製品をデザインするほか、伝統工芸の職人らで組織する「HIII」（ハイヒル）の立ち上げに携わるなど、地場産業活性化のためのデザインに取り組んでいる。デザインという概念を覆し続けるデザイナー安次富氏を紹介する。

世界に一つだけの花器
 図面のないプロダクト

　富山ガラス工房の野田雄一さんから依頼された若手のデザイナーとガラス作家のコラボで、石の形をした花器をデザインしました。コンセプトは雑草を活けることです。私は、店で購入する花よりも、道端に生えている草花のほうが好きで、小さい頃はよく道に生えている草などを摘んできては部屋に飾っていました。河原の石の間に生える草花は特に魅力的です。それを表現したいとガラス作家の渡瀬和恵さんと河原で石を探して観察することから始めました。

　私は、河原の石の型を取って花器を作るのでは、長い年月を掛けて作られた河原の石に失礼と考えました。しかし宇宙の歴史を顧みれば、私たちのDNAにも、河原の石に匹

格がない。もしかすると日本のものづくりの特徴は、アクセプタビリティ（許容範囲）が他の国々よりも広いのではないかという考えに至りました。
　その考えに基づいて、富山ガラス工房の「そばちよこ秘伝書」では、曖昧でしつかりとした規格を持たない決まり事を、日本の伝統に倣い、伝書にまとめたのです。昔の日本の知的財産の守り方は伝書です。武士の剣術は巻物、秘伝のたれの作り方は台帳などに記され代々受け継がれていく。そういう昔の日本のデザインの伝え方をやってみませんかと提案しました。そうやってできた「蕎麦ちよこ」は、作家一人ひとりの個性が表現されているにもかかわらず、統一性を持ったデザインになりました。



敵する遠い昔の記憶の欠片があるに違いない。そう考え、河原の石を観察することによって自分たちの中にある石のイメージを呼び覚まし、自然界には存在しないが、石に見える花器を一つひとつ作っていったのです。

　この試みは、SONY在職時代の私が行ってきたデザインとは全く違っていて、図面が介在しません。世界に一つだけしかないプロダクトを作るという経験も新鮮でした。これは家電製品のようにミリ単位で図面を引いて、デザインすることを叩き込まれてきた私にとって、発想の幅を拡げるきっかけとなりました。

　日本の伝統産業「個性」と「統性」
　プロのガラス作家9名とともに、富山ガラス工房の定番商品として、

仕事を生みだすデザイン「HIII」の立ち上げ
　初めての行政からの仕事は、富山県の高岡市デザイン・工芸センターからの依頼でした。今年で14年目になります。ここでのミッションは、地場産業である鋳物と漆の再興です。当時、高岡市の伝統産業は全体で600社くらいありましたが、毎日、1社ずつ倒産している状況と聞きました。

　当初、売れるデザインを提供することが求められていると思いつても、問題を解決するためには、一つの商品を提案しても、多くの作り手が同時に潤うことはありませんし、長続きもしないと悩みました。そこで作り手がデザイナーになるしくみを考え、様々な実験を繰り返しまし

た。例えば、風船を膨らませて電気鋳造すれば、誰でも美しいフォルムの一輪挿しを作れるといったことなどです。
　実験を繰り返す中で、高岡が得意とするのは、金属や漆の表面処理技術であることがわかりました。また、漆の場合、輪島塗や琉球漆器といった日本各地の漆塗りの技法というのは、地域ごとに独自の技術があつて、そこでしか作れないものだと思つていたのですが、実はペテラの職人さんにしてみれば、どの地域の技法だつて作れることもわかりました。日本には多くの漆器の産地があり、互いの違いを競い合つていますが、海外から見れば、その競争は無意味です。日本として世界と競争したほうが良いと考え、漆職人が

| | |
|-------------------------|--|
| ■あしとみ たかし プロフィール | |
| 略歴 | |
| 1959 | 沖縄県生まれ。 |
| 1985 | 多摩美術大学 美術学部 デザイン学科。立体デザイン専攻 プロダクトデザイン専修卒業。 |
| 1985～91 | ソニー(株)デザインセンター入社。テレビ/オーディオ/ビデオのデザイン。街ザートデザイン設立。取締役社長。 |
| 1991～1993～2002 | 多摩美術大学 生産デザイン学科プロダクトデザイン専攻 非常勤講師。 |
| 2000～2008～ | 日本産業デザイン振興会 グッドデザイン賞審査委員。多摩美術大学 生産デザイン学科プロダクトデザイン専攻 教授。現在は、プロダクトデザイン、地場産業開発、デザイン教育、デザイン評価など、総合的なデザインアプローチを行っている。 |
| 受賞歴 | |
| 1987 | グッドデザイン賞：KV25.29 DX(カラーテレビKV-25, 29DX) /ソニー(株) |
| 1991 | グッドデザイン賞：The Beta(ベータマックスビデオデッキ SL2100) /ソニー(株) |
| 1993 | U・M・Eクロス21 指名デザインコンペティション入選：Green Tool / SAAT Design Inc. 沖縄県『平和の礎』デザインコンペティション(優秀賞 ムッセビア・デザインコンペティション'94指名コンペティション入選：TORU-Tools(鎌、ナイフ、フォークのプロトタイプ) |
| 1995 | グッドデザイン賞：PetaSite(データマストレージシステムDMS-8800/8400) /ソニー(株)グッドデザイン・インターフェイス賞：WAVEFACTORY (Digital Function Synthesizer) / エヌエフ回路設計(株)グッドデザイン賞：ZILLA (10Base-T Ethernet Hub) / アクソンテクノロジ(株) |
| 1999 | グッドデザイン賞：Jucy (8-port USB Quad Hub) / アクソンテクノロジ(株) |
| 2004 | グッドデザイン・金賞：U-ONE (セラミックメタルハライドランプ) / ウシオライティング(株)グッドデザイン・日本商工会議所会頭賞：ハイヒルプロジェクト (地場産業開発) / 富山県高岡市グッドデザイン・日本商工会議所会頭賞：『百年物語』(地場産業開発) / 新潟県 Design Plus賞 / ドイツ：Paper Made Paper Knife / 安達紙器工業株式会社 |
| 2005 | アジアデザイン賞・大賞 / 香港デザインセンター：『百年物語 MyTool』(地場産業開発) / 新潟県グッドデザイン賞：pear (おりん) / 株式会社小泉製作所グッドデザイン賞：活動靴 (安全靴) / 株式会社シモングッドデザイン賞ベスト100：木の絵本 / もくもく絵本研究所 |
| 展覧会 | |
| 1997 | スーパーフック展(リビングデザインセンターOZONE) |
| 1998 | スーパースイッチ展(リビングデザインセンターOZONE) デザインウェーブイン富山(富山市市役所 / リビングデザインセンターOZONE) |
| 1999 | ツール展(リビングデザインセンターOZONE) "SOL-LEVATO"(ミラノ・サローネ) スーパースピーカー展 リビングデザインセンターOZONE "CoLaZiONe a Tokyo"(リビングデザインセンターOZONE) |
| 2000 | Designer's Catalogue-6(松屋銀座) / 日本デザインコミッティー 安次富 隆 展「技の術」(札幌、登別、富山、徳島、小倉、鹿児島) / 株布 ミレニアム2000展(ニューヨーク) / Gallery 91 スーパーポスト展(リビングデザインセンターOZONE) Morikami Museum(フロリダ) |
| 2001 | 『日本のデザイナー100人展』(東京、大阪、金沢、富山など) |
| 2006 | NHKハート展(日本橋三越) |
| 2007 | 安次富 隆『むすぶデザイン』展(福井県) |
| 2010 | |

デザイン概念の脱却 プロダクトデザイナーの新境地